

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100096
法人名	有限会社 スローライフ
事業所名	ぐるうぷほうむ54番地
所在地	松山市水産町54番地
自己評価作成日	H23年8月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

笑顔で接すること

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>「利用者が安心して暮らせる」よう、職員は、利用者との信頼関係作りに取り組んでおられ、利用者に笑顔でゆっくりとした態度でかわられるよう努めておられる。利用者が、朝は新聞受けまで新聞を取りに行かれたり、夜は玄関を閉める等、役割を持って生活できるよう支援されていたり、又、爪が伸びているとご本人が気付くように支援され、洋服をご自分で選べるようなサポートをすすめ、利用者が「自分の力で生活していると思えるような環境」作りに取り組まれている。</p> <p>事業所前にある神社の夏祭り際には、事業所駐車場で、駄菓子屋の出店を出したり、利用者職員で手作りしたシュシュを販売して、収益は、地域に寄付された。近所の子供達が事業所の駐車場で遊ばせてほしいとやってきたり、小学生が授業の一環の町探検で訪れたり、幼稚園児が訪れてくれて、歌を聞かせてくれたりして、利用者は子供達と交流する機会もあり、喜ばれ楽しみにされている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 ぐるうぷほうむ54番地2階

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

藤中 聖子

評価完了日

23 年 8 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 自分が自分として生きていくことが出来るよう、一緒に助け合 いながら、業務にあたっている。	
			(外部評価) 「自分がされたり言われて嫌なことはしない言わない」「誰の 世話にもならず自分で生活をしていると思えるような環境を 整える」ことを理念に掲げて、玄関に掲示されており、管理者 は、日々のケアの中で「自分が利用者だったらどうか」と、利 用者の立場に立ち考えるよう職員に話しておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域の夏祭りなどの行事に参加させて頂き、交流を図れるよ うにしている。散歩時等に、地域の方に出会ったら、こちらか ら挨拶をするように心掛けている。	
			(外部評価) 事業所前にある神社の夏祭りの際には、事業所駐車場で、 駄菓子屋の出店を出したり、利用者職員で手作りしたシュ シュを販売して、収益は、地域に寄付された。夏祭りの前には、 地域の方が試しに作ったパットライスを持って来て下さり、 利用者は懐かしい味に喜ばれたようだ。又、近所の子 ども達が事業所の駐車場で遊ばせてほしいとやってきたり、小 学生が授業の一環の町探検で訪れたり、幼稚園児が訪れて くれて、歌を聞かせてくれたりして、利用者は子ども達と交流 する機会もあり、喜ばれ楽しみにされている。管理者は、子 ども達とのふれあいは利用者を生き生きさせると感じておら れ、「今後もおつきあいを深めていきたい」と話しておられ た。さらに「地域の方達といざという時に協力し合えるような 関係を作っていきたい」と考えておられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 実習生やボランティアの受け入れをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族や地域の方に参加して頂き、ホームでの様子等を伝えている。頂いたご意見は、実現できるように努力している。</p>	<p>管理者は、利用者も参加しやすいように「茶話会のような会議」を行いたいと考えておられる。今後、会議開催に向けて体制を整えられて、定期的な会議の開催に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。会議を活かして、地域との協働体制を作ったり、事業所のサービスについても具体的に報告しながら、意見や要望をうかがってみたい。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>3月に管理者の交代があったこともあり、会議の開催は不定期となっており、概ね2ヵ月ごとの開催には至っていない。会議開催時には、1ヶ月前にはご家族に日程をお知らせし、来訪時や電話にて参加の有無について確認されている。会議時は、事業所からホームの様子を報告されたり、夏祭り等の活動予定を知らせておられる。地域の方からは、地区行事を教えてください、8月には、集会所で開催された救命救急の講習に職員が参加された。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>認定更新時に、担当者に利用者の様子や状態を伝え、協力関係を築くように努めている。</p>	<p>運営推進会議時、市の担当者の方も参加していただき、熱中症等、季節に応じてケアで気を付けることについての助言をいただいた。又、会議のすすめ方についてアドバイスをいただいたり、「行事と合わせて家族会を開いてはどうか」というようなアイデアもいただいた。</p>
			<p>(外部評価)</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日中は施錠はしていない。夕方からは安全のため、施錠をするようにしている。外に出ようとする利用者がいれば、納得するまで一緒に散歩に付き添っている。</p>	<p>これまで、利用者が気ままに外に出て行かれたようなこともあり、事業所ではその後、職員で話し合い、居間に利用者の方の姿がなければ、居室を確認して、利用者一人ひとりがどこで過ごしているか把握することに取り組まれている。「帰りたい」気持ちになる方には、他の利用者ご本人に話しかけてくださったり、職員もゆっくりかかわることで気持ちが落ち着かされることもあるようだ。又、ご自宅近くをドライブされることもある。日々のケアの中で拘束となるような場面があれば、管理者がその都度、職員に行為について説明をされて、後日のミーティング時等にも、その事例をもとにして皆で話し合うようにされている。</p>
			<p>(外部評価)</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入浴時などに、身体をチェックし、虐待がないか確認し合っている。気になることは申し送りで確認を行い、事故が起きないように努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 講演会などに積極的に参加し、勉強している(していきたい)。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は十分な説明をし、利用者や家族の不安や疑問を聞き、理解・納得して頂けるように心掛けている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に、家族からの要望などを聞き、取り入れるようにしている。ホームでの様子は、良いことを多めに伝えるようにしている。 (外部評価) 事業所では、利用者の方の日常生活の写真を載せた便りはユニット毎に発行されており、お花見や夏祭りや外食等、出かけた様子や、誕生日のお祝いの様子、事業所の畑で作業している様子等、日常生活の様子を写真入りで載せておられる。管理者の交代の際には、事業所便りを通して、ご家族に報告をされた。便りは、ご家族が来られた際に手渡しされたり、遠方に居られるご家族には送付するようにされている。玄関入ってすぐの場所に、その日の出勤職員の名前と写真をかけておられ、ご家族が来られた際にも「だれが出勤しているかわかるように」されている。運営推進会議時、ご家族から「他のご家族との交流があればいい」というような意見が出され、事業所では、今後、「行事や運営推進会議の前に、ご家族同士でお話ができるよう機会を設けたい」と話しておられた。	管理者は「ご家族同士だからこそ話せる話もあるのではないかと考えておられ、「家族会等、ご家族の立場で意見交換できる場を作りたい」と考えておられる。今後さらに、ご家族と一緒に事業所の活動に参加できるような機会を作ったり、利用する側であるご家族の声が集められるよう取り組みも工夫して、ご家族からの意見を事業所のサービスの向上への取り組みに、つなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			職員の意見や提案を聞き、反映させている。	
			(外部評価)	
			事業所は、パート職員を多く配置した勤務形態で運営されており、職員個々の事情等も踏まえて、長く働けるような環境作りに配慮されている。管理者は職員それぞれの勤務年数等に沿って、外部研修等をすすめておられ、近々、認知症の理解を深めるような研修に参加することになっている職員もいた。管理者は「職員のチームワークを大切に組み組んでいきたい」と考えておられ、畑の水やり等、ユニットごとに当番を決めて協力して行うことにされていた。職員で自己評価に取り組まれ、分かりにくいような項目については管理者が説明する等してすすめられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員一人ひとりに声をかけ、思いを聞くように努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修に参加したスタッフが、ミーティングで報告し、相互に話し合えるように、努力中である。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			他の施設の方と、交流を深める機会を持てるようにしていきたい。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に家族から聞いた情報を、職員間で共有するようになっている。声かけをしたり、コミュニケーションを取ったりする時間を多めに取るように心掛けている。今までの生活状況や好みなどを聞き、安心して貰えるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 困っていることや要望などを聞き、状況を把握して、よりよい関係づくりに努めている。面会時には、近況を報告したり、行事への参加を呼び掛けたりするなどしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の状況を確認・把握し、必要としている支援を見極め、対応できるように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 無理強いせず、日常生活を共にして、洗濯・買い物等、出来ることを一緒に行っている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出時や行事の時には連絡し、参加の呼びかけをしている。写真を撮影し、参加出来なかった家族に見て頂けるようにしている。何かあれば、連絡・相談し、希望に添えるように努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族だけに限らず、面会できるようにしている。面会時に落ち着いて話が出るように、環境作りをもう少し工夫していきたい。 (外部評価) 昔からの友人が、毎週来てくれ居室でお話することを楽しみにされている方もおられる。受診時、ご家族と外出した際には、外食をして帰ってこられる方もおられる。読書がお好きな方は、月2回集会所に来る、移動図書を利用されている。調査訪問時、昼食時に、食事がすすまない利用者の、お隣の方が、「これ食べよ。おいしいよ」と声をかけてくださっている様子がみられた。法人内の事業所が近くに移転してきたこともあり、散歩時に立ち寄ってお茶を飲んで帰るようなこともある。2階ユニットの利用者が1階ユニットで一緒にお茶を楽しむようなこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングでは、ひとつの大きなテーブルに輪になって座るようにして、お互いの顔が見れるような配慮をしている。食事介助が必要な人には、他の利用者が、声かけしながら手助けをする姿が見られる。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要があれば、相談に応じたり、フォローするように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いや希望をお聞きし、把握するようにしている。希望に添えない時は、本人に寄り添い、話をし、出来る限り納得して貰えるように努めている。	
			(外部評価) 職員は、日々の利用者とのかわりの中で利用者の思いや意向を知ること努めておられ、毎月、職員は、利用者の最近の様子を「困ったカード」に記入し、介護計画作成時に採り入れるようにされている。筆談で職員とお話をされている方もおられる。	事業所は、多くの職員がローテーションしながら利用者を支えておられることもあり、職員個々の持っている情報をすべての職員で共有できるような仕組みも期待される。職員は利用者が「～したい。～行ってみたい」等と一言を、とてもうれしく思っておられ、ご本人が希望するお墓参り等にも、ご家族と相談しながら支援していきたいと考えておられる。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に得た情報をフェイスシートに記入し、職員間で共有するようにしている。また、ご本人との会話の中で、生活歴や好みなどをお聞きし、把握するように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの様子や体調を、朝・夕の申し送りの際に報告・連絡し、スタッフ全員が確認を取っている。特別なことがあったら、責任者に相談し、指示を仰ぎ、連絡を密に取るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月に1回、ミーティングを行い、話し合いの場を持っている。介護計画は、6か月ごとに見直しをし、本人の現状に合った下肢ご計画を作成するようにしている。毎月、月末には一人ひとりの様子や変化、困ったことを記入し、現状を把握するように努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者がご家族にケアへの要望等をお聞きして、利用者個々の担当職員が利用者ご本人のケアへの希望を聞き取り、利用者個々の担当職員と計画作成担当者が相談しながら、介護計画を立てておられる。記録は、今月分と前月分以外は法人事務所で保管するようになっており、情報が必要な時にはファックスでや電話で聞くようになっている。</p>	<p>事業所独自の介護記録用紙には、ケアプランについて記入できるよう欄を設けておられるが、活用するまでには至ってないようだ。今後さらに、利用者主体の暮らしやケアを実践していくために、職員間でも介護計画の共有や実践に工夫していかれてほしい。ご家族や地域の方等、利用者にかかわる方達がチームで利用者のその人らしい暮らしを支えていけるよう、介護計画も工夫していかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子や変化、気付いたことなど、詳しく介護記録に記入し、職員間で情報の共有をしている。ミーティング時に見直しをしてケアに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人の状態や家族の意向・ニーズに配慮しながら、話し合いを持ち、対応するようにしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の行事には積極的に参加するようにしている。秋祭りの時には、お神輿をお願いしたり、日頃から、ホーム前の神社に参拝したりしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医への受診、希望の病院への受診が出来るように支援している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>毎月1回、協力医の往診があり、夜間やいざという時には、協力医に相談されたり、往診してくれるようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>毎月1回、ホームのかかりつけ医に往診して貰い、気になることや変化等を報告・相談している。日々の暮らしの中の気付いたことや変化などを管理者に報告・相談し、個々の利用者が、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	(自己評価)	
			<p>入院時には、こちらから、利用者の情報やそれまでの状態を報告し、医療機関と情報を交換するようにしている。早期に退院できるように、状態の把握や相談をし、関係作りに努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>ホームにて出来る終末期について説明し、本人や家族の意向・希望などをお聞きし、どのような終末期を迎えるのかを話し合い、医師との連携を図りながら支援している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>入院となった利用者がおられたが、その後、ご家族から「馴染みの場所でもある、馴染みの人がいるホームで最期を過ごさせてあげたい」という希望もあって、事業所で看取りを支援した事例がある。その際は、協力医が毎日往診に来てくださり、ご家族と協力し合って取り組まれた。ご家族の方からは、感謝の言葉をいただいたようだ。要介護認定時には、ご家族に終末期のあり方についてお聞きしているが、「今の段階では返答しにくい」と言われることも多く、利用者には、普段の何気ない会話の中で聞き取りを行い、「家で死にたい」と言われる方も複数おられるようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当や初期対応の訓練を行う機会を設け、実施していくようにしたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の消防・避難訓練に参加している。また、ホームでの消防・避難訓練を行う機会を設けるようにしていきたい。 (外部評価) 11月には、消防署の方に来ていただき、避難訓練を実施する予定となっていた。出火場所や、時間帯等、どのような設定で実施するか検討しているところであった。地域の方にも声をかけ、一緒に避難訓練を行いたいと考えておられる。	事業所の立地条件や利用者の状態、又、時間帯やいろいろな災害を想定して、避難訓練を重ねていかれることが期待される。運営推進会議等を活かして地域の方達から地域の情報を得たり、又、いざという時に地域と協力し合えるような体制作りに向けても、取り組みをすすめていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格・気持ちを尊重し、さりげないケアや声かけをするようにしている。トイレ誘導・パット交換時の声かけなど、本人に聞こえる程度の声かけで行うようにしている。 (外部評価) 「利用者が安心して暮らせる」よう、職員は、利用者との信頼関係作りに取り組んでおられ、利用者に笑顔でゆっくりとした態度でかかわられるよう努めておられる。利用者が、朝は新聞受けまで新聞を取りに行かれたり、夜は玄関を閉める等、役割を持って生活できるよう支援されていたり、又、爪が伸びているとご本人が気付けるように支援され、洋服をご自分で選べるようなサポートをすすめ、利用者が「自分の力で生活していると思えるような環境」作りに取り組まれている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何かをする時には、出来る限り、本人の希望を聞き、自己決定できるように働きかけ、実行できるように心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切に、思いや希望を尊重した過ごし方が出来るように、支援している。1対1でじっくり向き合って話を聞くように心掛けている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人らしい身だしなみを身だしなみやおしゃれをできるように、洋服を選ぶ手助けやお手伝いをするようにしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) メニューや味付けを工夫して、楽しく食事ができるように心掛けている。利用者に野菜を切ったり、味見や味付けをしてもらったり、出来ることを手伝ってもらっているようにしている。	
			(外部評価) その日の食事担当職員が、冷蔵庫等にある食材をみて利用者と相談ながら、栄養バランス等も考慮して食事作りをされている。ジャガイモや栗の皮をむいてくださる利用者もおられる。2階ユニットは、介助や見守りの必要な利用者の隣に職員が座り、サポートしながら職員も一緒に食事をされている。「おいしかったね」等と利用者同士でもお話している様子もみられた。割ぼう着を着けると、心が落ち着く利用者の方もおられ、食事の支度時には割ぼう着を着けて、職員と支度をされる様子もみられた。散らし寿司や煮物のリクエストがある時には、利用者に味付け等もお聞きしながら作っておられる。事業所の畑で採れたなすやしそ等も料理に使っておられる。1階ユニットは、食事の席は特に決まっておらず、好きな場所で食事をされている。食事時は、職員は少し離れたテーブルで食事を摂り、必要時には利用者のそばへ行ってお対応されていた。食後には、男性の利用者が職員と一緒にしゃべりながら、洗い物をされている様子もみられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は毎食ごとに記録している。食事は一人ひとりに合わせた調理方法にしている。水分量は記録していないが、食事やおやつ時にはしっかり水分補給ができるように支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけをして口腔ケアを行っている。自分で出来る方は声かけ・見守りをして、出来ない方は職員が行うようにしている。義歯のかたも、同様にケアを行うようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄記録をつけ、個々の排泄パターンに応じて、トイレの声かけ・誘導を行うようにしている。	
			(外部評価) 利用者が落ち着かない様子がみられた際には、声をかけてトイレに誘導する等されている。「3時間に1回」は、声かけや確認を行うようにされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多めに摂取するようしたり、ヨーグルト類をお出しするようにしている。必要に応じて、お腹を温めたり、マッサージをするように取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに声かけし、体調や希望を確認・優先しながら、入浴の支援をしている。排便があった時は優先的に入浴するようにしている。入浴時には、よく話を聞くようにし、リラックスして入浴できるようにしている。	
			(外部評価) 湯船で温まってから体を洗う方や逆の方、又、以前から洗顔にはちみつを混ぜてケアされているような利用者にも、続けられるように対応されている。昼間入浴をすすめると、「今は入る時間じゃない」と言われる利用者もあり、夕方入浴して、寝間着で夕食を食べる等、それぞれの生活の習慣や希望を聞きながら支援されている。入浴準備も、利用者ができるだけ行うよう支援されており、必要に応じて職員が手伝うようにされている。入浴剤を入れ温泉気分を味わうこともある。現在、車いすを使用している利用者の方でシャワーのみの方もおられるが、管理者は「今後は、浴槽で温まれるように支援していきたい」と話しておられた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣を把握し、体調や様子を見ながら、休息を取るよう働きかけている。一人ひとりのリズムに合わせた環境作りをして、気持ちよく眠れるようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は一袋ずつ分けて、名前・日付を記入し、服薬の支援を行う。一人ひとりの薬の処方箋を個人のファイルに保存し、内容についても把握するように努めている。処方に変更・中止があれば、その都度、日誌に記入・申送りし、職員全体が把握して状態の変化の観察も行う。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの得意なこと、好きなことを把握し、それに応じた役割をやお手伝いをお願いするようにしている。リビングで、折り紙・習字をしたり、職員と一緒に散歩に出かけたり、気分転換の支援をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や体調などを考慮しながら、散歩に出かけたり、買い物に出かけたり出来るように支援している。	
			(外部評価) 事業所の前の神社に散歩に出かけて、お参りされたり桜や椿、イチヨウ等を楽しまれたり、事業所の近所に移転した系列事業所から車いす対応の車を借りることもできるようになり、「今後は外出する機会を増やしていきたい」と、職員は話しておられた。 ご家族のアンケートの集計結果等も活かして、ご家族と外出支援への要望等について、お聞きしてみるような機会にされてはどうだろうか。又、利用者の行きたいところや懐かしい場所等にも出かけていけるような支援を工夫して、利用者の生活を広げていかれてほしい。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 事務所金庫にて、お金を管理して、必要に応じて出金している。買い物の際には、好きなものを購入できるように職員が同行して支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人から希望があれば、必要に応じて対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングと台所には境目がなく、調理をしながら、五感を感じられるように工夫をしている。庭の花を生けたり、利用者の意見を取り入れながら、居心地の良い暮らしが出来るように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所の隣には池があり、居間も居室も風通しが良く、調査訪問時には利用者が「風が気持ちいいから、いつも戸を開けとんよ」と話してくださった。各所にいすを配置してあり、利用者は気分に応じてそれぞれの場所で過ごされている。居間や廊下等、職員が掃除機をかけると、利用者がモップを掛けてくださり、お花の好きな利用者が、所どころにひまわりやホウズキを生けてくださっていたり、観葉植物の世話をしてくださっている。事業所入り口には自動販売機が設置されており、利用者の中にも時々買う方がいる。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>気の合った利用者同士が楽しく過ごせるように座席を考えたり、リビングや廊下に椅子を置き、休憩や利用者同士のコミュニケーション出来る場を作っている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>慣れ親しんだ物を持って来て頂き、部屋で落ち着ける空間作りが出来るように、本人や家族と共に相談しながら、居室作りをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々の担当職員が居室のタンス等の整理を利用者とともに行っておられる。ご家族からの誕生日プレゼントのお花を飾っておられる居室もみられた。使い慣れたタンスや、テレビ台、椅子やテーブル、ベッド等、ご自宅で使っていたものを持ち込んでおられる方もいる。ベッドは事業所のものを使っておられる方やギャッジアップベッドをリースされている方もいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室やトイレ、浴室など、分かるように目印をつけ、分かりやすい環境作りをしている。安全で自立した生活が送れるように配慮している。</p>	